

伝統を重んじる

かずさ地域に古から受け継がれてきた伝統行事。これからもふるさとの大切な文化財として次世代に守り伝えていきたいものです。

梵天立て



行人のほら貝の合図で、中島区の若衆たちが厳寒の海に飛び込んで、5m余りの竹の先に御幣をつけた「梵天」を海中に立てるといふ勇壮な行事。この間海岸では行人たちが般若心経を唱え、五穀豊穡、浜大漁などを祈願する。

元禄年間、金田海岸沖で幕府の御用船が難破した際に大錨を紛失し、疑いをかけられた中島の住民が海に「梵天」を立て、出羽三山に祈ると大錨が浮いてきたという伝説に由来するもので、この年に成人を迎える若者が中心となる成人儀礼として300年以上も続いている。

- 日時：1月11日(土) 7時頃 ※雨天実施
- 会場：金田さざなみ公園近く
(通称ヤエング新町船溜)
- 問合せ：0438-22-7711 木更津市観光協会

やぶさめ



- 日時：1月7日(火) 10時頃
- 会場：菅原神社
(君津市北子安2-18-1)

北子安にある菅原神社の「やぶさめ」(市指定文化財)は別名「おまと」ともいわれ、1月7日に行われる。

この神事に奉仕する男の子を「わかと」といい、氏子の中で10歳未満の男子が選ばれる。

式典の後、お祓いの済んだ的や弓、矢が境内に持ち出され、射る場所が設定される。的はその年の恵方(その年の良い方位)に立てられ、「わかと」がはじめに12本射る。次に宮司、神社総代らがそれぞれ順次弓を射る。射た矢が的の白いところに当たったときは晴れ、黒いところに当たったときは雨で、白と黒の部分に当たった矢の数により、その年の天候や作物の豊凶を占う。
(参考文献:君津市史 民俗編)

筒粥

飽富神社は延喜式内社の一つで創建は社伝によれば神代(綏靖天皇元年=紀元前581年)にまで遡るといふ古社。祭神の倉稻魂命(うがのみたまのみこと)のうかは、穀物、食物のことで農業神。稲荷神(お稲荷さん)として広く信仰されている。

『筒粥の神事』は、農業神らしく稲、麻、麦、大豆などの農作物の作柄を占う古くから伝わる伝統行事。例年1月14日 20:00頃、境内の御粥殿に氏子が集まって準備。0:00を過ぎると地区の青年数人が裸になって水を浴び、身を清め、その後、若者4人がヒノキの臼と杵をこすり合わせて火を起こす。鍋に米を入れて粥を作り、その中に葦の藁を次々と入れ、煮えた粥が冷えた後、筒を取り出し、中に詰まった粥の量を計って、その量から作柄を占う。



- 日時：1月14日(火) 20時頃(要確認)
- 会場：飽富神社
(袖ヶ浦市飯富28063)

船祝

富津港で1月2日に行われる行事。港の漁船は大漁旗などで飾り付けられ、漁師が見物に訪れた人々に向かって祝儀やお菓子などさまざまなものを投げて、その年の豊漁と安全を祈願する。



- 日時：1月2日(木) 7時頃～
- 会場：富津港